

ビーチクリーンアップモニタリング調査結果

日 時：令和4年（2022年）11月12日（土）8:40～15:20

場 所：小豆島（調査場所①：池田港近くの海岸 調査場所②：鹿島海岸（鹿島海水浴場））

参加者数：12名

11月12日（土曜日）12名の方に参加いただき、小豆島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。

島内の2か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法（調査時間20分間）と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

調査方法の説明は、海ごみリーダー養成講座（11月5日開催）の修了生が務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、2グループに分かれてごみ拾い調査を行いました。

1か所目の池田港近くの海岸は、大きなごみは少ない状況でした。調査を行いながら丁寧に海岸を見ると、破片化したごみが多く、プラスチックシートや袋の破片、発泡スチロールが多い調査結果となりました。海岸に取り残されたごみが時間の経過とともに破片化しているように感じました。

2か所目の鹿島海岸は定期的にクリーンアップが行われている場所であるため、大きなごみは少なかったものの回収されずに残った破片化したごみやカキ養殖用まめ管が多い結果となりました。

参加者からは、「生活ごみが多い（プラスチック全般、食品関係のプラスチック）」「個数の確認はしていないが2.5mm以下のごみも多い」「海岸によってごみの種類が違うことを知ることができた」などの意見がありました。

今回のモニタリング調査を通して、陸域から多くのごみが出てきていると気づきがあったようです。今後、私たちの生活を見直し、海ごみの発生を抑制する活動につながればと思います。

また、海ごみリーダー養成講座の受講生は、参加者に対して調査方法などを説明する中でより分かりやすい説明方法を学んでいたように感じました。

各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった3品目） t=20分間	回収量
池田港近くの海岸	① プラスチックシートや袋の破片 89個 ② ガラスや陶器の破片 53個 ③ 発泡スチロール破片 40個	4袋（30Lのごみ袋） 8.2kg
鹿島海岸	① プラスチックシートや袋の破片 140個 ② カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）122個 ③ 発泡スチロール破片 112個	2袋（30Lのごみ袋） 3.3kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを45品目に分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量をだまかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所① 池田港近くの海岸の様子



ICC 調査の方法を説明



海ごみリーダー養成講座受講生と一緒に調べる



ICC 調査の様子



集合写真

調査場所② 鹿島海岸の様子



海ごみリーダー養成講座受講生による説明



海岸の様子



ICC 調査の様子



調査結果、気づいたことを共有